

# まるごとじんけん

発行：2026(令和8)年3月5日 淡路市・淡路市教育委員会・淡路市人権教育研究協議会  
編集：淡路市人権教育研究協議会広報委員会 ※淡路市 HP(よく見られる情報→人権広報)



第  
**77**  
号

## 2025 人権ポスター入賞作品

中学校の部



特選 <sup>でぐち</sup> 出口 いづみ  
(岩屋中2年)



入選 <sup>ゆがほら りく</sup> 柚原 理玖  
(一宮中3年)



入選 <sup>たちばな あかり</sup> 橘 紅李  
(東浦中2年)



入選 <sup>にった りな</sup> 新田 理奈  
(津名中2年)



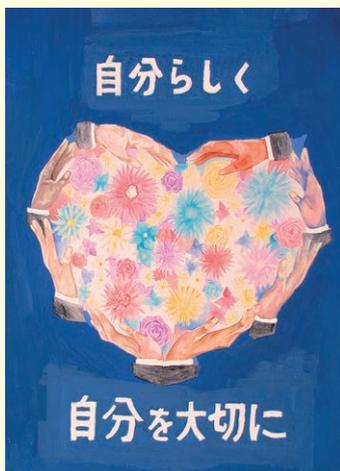
佳作 <sup>もりもと りさ</sup> 森本 莉彩  
(岩屋中2年)



佳作 <sup>さなぎ りの</sup> 佐奈喜 琉乃  
(津名中2年)



佳作 <sup>よこ ましゅう</sup> 横 茉珠  
(津名中3年)



佳作 <sup>なかむら ほのか</sup> 中村 帆花  
(北淡中2年)



佳作 <sup>みおう りみ</sup> 美王 里心  
(北淡中1年)

- P2 特集 淡路市人権を考える集い
- P3 人権文集 「こころ」優秀作品 浦小学校 漣 綾乃さん
- P5 人権の眼 一宮認定こども園保育教諭 日下 芳宏さん
- P6 うちの学校紹介します! 東浦中学校

第21回

淡路市人権を考える集い

12月6日、「淡路市人権を考える集い」（毎年12月4日〜10日人権週間中に実施）を淡路市立サンシャインホールにて開催しました。例年行っている人権尊重ポスター・標語入選者の表彰と共に、今年も淡路市制・淡路市人権教育研究協議会20周年を記念し、人権文集「こころ」入賞者による作文発表や抽選会も行いました。

ロビーでは人権擁護委員による啓発グッズ配布や市内作業所の物品販売も行われ、約200名の方にご参加いただきました。



肩甲骨の動きで弦を操る  
伊藤真波さんのバイオリン演奏

あきらめない心  
〜自分の人生は自分で切り拓く〜

記念講演では、看護師・水泳選手・三姉妹の母・バイオリニストである伊藤真波さんに「あきらめない心」と題してご講演いただきました。

伊藤さんは、夢に向かつて邁進していた20歳の時、交通事故に遭いました。トラックに轢かれた右腕は、感染症により切断を余儀なくされました。夢を絶たれ、失意のどん底にあった彼女が、後に、日本初の義手の看護師・パラリンピック水泳選手・大阪万博開会式バイオリン奏者となります。

彼女は、なぜこんなに前向きに生きてこられたのでしょうか。

誰にも迷惑かけないでしょ

「自分のことは自分で決めなさい。」と言われて育った。将来の夢を看護師と決め、働きながら学校に通った。「誰にも迷惑かけない」と反対を押し切りバイクの免許を取った。そのバイクで事故に遭う。夢は看護師、支

える側だ。逆の立場になるなんて考えたこともなかった。「誰にも迷惑かけない」どころか、私は親に支えられ、親を悲しませる親不孝者になった。

自分で決めて、自分で伝えなさい

それでも両親は、笑顔を絶やさず毎日病院に来てくれた。右腕の損傷はひどかったが、治ると信じ手術を続けた。だが、痛みは想像を遥かに越え、食欲も気力も奪った。そんな折、「右腕を切ることを決めて、自分で先生に伝えなさい。」

母が言った。実は、痛みの原因は感染症で、命が危いため切断するしかないと言った主治医から言い渡される寸前だったと後に聞かされた。そんな時でも「自分のことは自分で決めなさい」を母は貫いたのだった。

夢をあきらめない

看護学校の先生に復学を勧められ、看護師専用の義手を作成するため、静岡から遠い兵庫に転院した。入院中、自分より重い障がいがある人の生きたまに触れ、障がいを「自分らしさ」と受け止められるようになった。車いすバスケットにも影響を受けた。倒れても起きる強い人間になる！

退院後、専用義手で復学し、日本初の「義手の看護師」となった。自分に何ができるのか悩んだが、寄り添い、話を聞いて患者の心を癒す「自分だからできる看護」に気づいた。

5歳から始めた水泳にも挑戦した。隠してきた自分の姿をさらけ出して泳ぐことで、もともと強くなりたい！看護の仕事と同時に練習に励んだ。「できない」が多い中「できる」が増えたのが嬉しかった。パラリンピアンとなり、アジアパラ競技大会10メートル平泳ぎで銀メダルを獲得した。

両親に私の幸せな顔を見せたい

母の好きな「精霊流し」を演奏したい。演奏専用の義手を作成し、7歳で始めたバイオリンの練習を再開した。自分の結婚披露宴でその夢は叶った。

「自分がバイク好きだったせいで、娘の人生を台無しにした」と愛車を処分した父。父を責め、八つ当たりしたことを悔やんだ。

笑顔で支え続けてくれた両親に、私の幸せな顔を見せたい！その願いこそが、私の挑戦の原動力、「あきらめない心」の源なのかもしれない。

市内保育園（所）・認定こども園、小中高등학교、一般の皆様から多くのご応募をいただき、人権文集「こころ」第21集が完成しました。12月6日（土）「淡路市人権を考える集い」では、淡路市制20周年を記念し、作者本人（または代読）による作品発表を行いました。

ここでは、当日発表できなかった作品をご紹介します。文集「こころ」は、市内小中学生の全家庭に配布するとともに、市内各公民館、図書館（図書室）、地区事務所、医療機関にお届けしています。ぜひ、手に取って多くの方に読んでいただきたいと思っています。

## ひびこりつめられた優しさ

浦小学校 六年 漣 綾乃

「いつてらっしやろ。」

「おかえり。」

夏休みになって、お母さんが仕事に行くのを見送ったり、むかえたりすることが多くなりました。学校がある時は、自分の準備に精いっぱい気にならなかつたけれども、私はお母さんの仕事に行く時のズボンが気になりました。洗たくをしているはずのズボンですが、どれもひびの所が白くなっています。ひびの所が破れそうになっているデニムをはいている時もありました。気になったので、

「他のズボンないん。」

「仕事でそうなるから気にしない。」

「お母さんの仕事しよるん、見たことあるやろ。」

と言ったので、思い出してみました。

私のお母さんは、市の子育てセンターで働いています。毎日、保育園に入るまでの子どもたちとおうちの人がいっしょに来て、遊んだり、相談したり、イベント参加したりできるしせつで働いています。

お母さんがすぐひびについて、子ども達と関わったり、子どもたちのまねをしたり、おうちの人と話をしていたりするのを思い出しました。目の高さを同じにすることで、話しやすくなり、子どもたちもこわがらずにお母さんと接することができているのだと思います。

私は、今までに自分に関わってくれた保育所の先生や学校の先生、バスケのコーチたちも、私に何かを言う時は目を合わせてくれていると気づきました。

何かを人に伝えたい時は、伝えたい人の目を見て言うと、気持ちも伝わるのかなと思います。また、

目の高さを同じにしたり、同じようにやってみたりすることで、相手の気持ちや困っていることに気づけると思いました。

お母さんのズボンはよごれではなく、多くの人と関わることでそうなってしまうものだとということが分かりました。私と関わってくれている人たちが、私にしてくれている気づかいや心配りにも気づくことができました。この夏休み、今まで気にもしなかつたお母さんのズボンから、人と関わる中で大切なことに気づきました。

私は、相手の気持ちを考え、困っていることに気づきたいと思ったり、私に関わってくれている人たちがしてくれているようにやってみようと思います。相手の気持ちや困りごとに気づき、話を聞いたり、困っている人を助けたりできる人になりたいです。私だけでなく、社会のみんながそう関わってくれると、笑顔も増えると思います。

## あきらめない心

伊藤真波さん、

ありがとうございます！

瀬合 明美

今回、伊藤真波さんの講演会に行くことができて本当に良かったです。実は、私の父も25歳の時に事故で片腕になりました。丁度私が生まれて6か月のころでした。真波さんのお話を聞きながら、父のことが重なりました。父も前向きに何でも自分でしていたので片腕とは思えぬほどでした。

私自身も高校の時に難病になり、現在人工呼吸器をつけ、高齢になった親やヘルパー・訪問看護の方々に支えられながら、住み慣れた家で暮らすことができています。しかし、これからのことを考えていかなければならない今、心の叫びは大きくなる一方です。「これからも生まれ育った地域で生きていきたい！」真波さん、ありがとうございます。私も諦めません。

第2回  
淡路市じんけん市民講座



10月16日淡路市役所にて、認定NPO法人D×P今井紀明さんを講師として「若者の孤立を防ぐ〜未来に希望を持てる社会をめざす取組〜」と題し、講演会を開催しました。

参加者から「若者困窮者が全国で300万人以上いることにすごく驚いた」「行政の手が届きづらい部分、オンライン相談等で支援をされていて勉強になった」「現実的な運営が好循環を生み、卒業生が次の寄付者になるのが素晴らしい」などの感想をいただきました。

第21回  
淡路市人権を考える集い



12月6日サンシャインホールにて、「第21回 淡路市人権を考える集い」を行いました。(関連・特集記事)

例年行っている人権ポスター・人権標語入選者の表彰に加え、今年度は淡路市制20周年を記念し、人権文集「こころ」入選作文の発表も行いました。

「どんなときも人をバカにしない大谷翔平選手みたいになりたい」「おばあちゃんの死を通して命の大切さを学んだ」と自分の言葉でしっかりと語る姿に、会場から大きな拍手が送られました。

第3回  
淡路市じんけん市民講座



11月19日淡路市役所にて、写真家玉本英子さんを講師として「ウクライナ 戦火に生きる人びとを見つめて」と題し、講演会を開催しました。

「今この瞬間にも尊い命がなくなっている…一刻も早く終戦が訪れるよう願う」「日本も同じような時代があったと思うと考えさせられる」「ドローンが兵器として使われることを知った」「停戦すれば命は守れるが失った仲間の命が無駄になる、兵士の葛藤に胸が痛む」等、多数感想をいただきました。

第4回  
淡路市じんけん市民講座



1月16日淡路市役所にて、阪神淡路大震災語り部二世の米山未来さんを講師に迎え、「未来へつなぐ 震災のこと」と題し、講演会を開催しました。

参加者の関西学院大学の学生さんは、グループワークで「コンビニに防災コーナーがあれば日常的に意識しやすいのでは」と発言してくださいました。若い世代の参加者からも「地域行事に積極的に参加して繋がるのが大事」「講座に参加していろいろな世代の人の話が聞け、能動的に考えることができた」等の感想をいただきました。



「せんせい、みて!」

一宮認定こども園  
保育教諭

日下 芳宏

五才児のためになぞり書き用の名前の手本を書く機会がありました。「今の自分に書くことのできる、いちばんよい字を書いて見せなくては…」おのずと気持ちが整う場面です。

五十数才も年下の園児たちから教わることは、日常の中にたくさんあります。何より子どもたちのすばらしいところは、身の回りの様々なものに夢中になれることです。地面のダンゴムシの動きをじっと見つめる子。雲の造形に想像をふくらませる子。友だちと「二人縄跳び」に繰り返しの挑戦する子。お気に入りの絵本

を一生懸命に拾い読みする子。「あわ神」のぬり絵を丁寧に仕上げる子。この子たちが（ブランコをこいでいる場面でさえも）「せんせい、みて!」と目を輝かせるのは、きっとそこに共感してほしい「出会い」や「気づき」「感動」があるからに違いありません。子どもたちの感性や知的好奇心は、「何かに心を動かされ、それを身近な人と共有する」という体験の積み重ねによって、豊かに培われていくものなのでしょう。

学校が「かしこく・やさしくなる場所」であるならば、園は「かしこくなる・やさしくなるう・やさしくなる」とする基礎的な（あるいは絶対的な）感覚を育てる場所です。日々の諸体験を通して園児の感性や知的好奇心を育むことは、人権教育がめざす「自己実現」「共生社会」という実りに向けて、畑を耕すような営みなのだと思います。

「せんせい、みて!」一人の子が、ペンでなぞり書きした名前を掲げました。「よく書けたね。すてきな名前だね」と私。その子もうれしそうですが、私だつて負けないくらいうれしいのです。さあ、次はどんな「みて!」に出会えるのだろう—そんな思いにわくわくしながら、私は今日も、大好きな子どもたちが待っている保育室の扉を開いています。

みなさんのおたより

●一つ一つの記事等凝っているのが伝わります。(20代)

●表紙から過去の広報紙の歴史に触れることができよかったです。(30代)

●子どもたちの表現力に感心しました。(50代)

●人権ポスター、どれも素敵なお作品です。(60代)

●設立二十周年に思う。(60代)

●久しぶりにクロスワードクイズに挑戦。難しく感じました。言葉が出てこない自分に老化を感じました。(60代)

●我々昭和生まれの年代の人間は、悪気なく知らず知らずパワハラ、モラハラになる言動をする可能性がある。注意して日々生活したいと思います。(60代)

●100歳体操の後で人権DVDを見ました。一人でも多く関心を持つことで信頼しあえる関係になると思います。(70代)

●人権標語を読んで、そのとおりやなあ、みんなちゃんと考えてるなあと思いました。(70代)

●誰もが生きがいを実感できる人生を送れるまぢでありますように。(80代)



「風の舞」島で生きた人々の魂が風に乗って解放されることを願った。

ワールドワーク  
国立療養所大島青松園

11月10日、市人教理事会で、香川県のハンセン病患者療養所大島青松園を訪問しました。

かつて「らい予防法」の名のもと患者は年齢を問わず強制的に療養所に隔離・収容されました。「無らい県運動」により患者への差別・偏見は拡大し、本名を名乗ることも完治後故郷に戻ることもできず、多くの方が島で生涯を終えました。島から見える美しい風景が、故郷を偲ぶ目には悲しく映つただろうと思うといったたまれない想いになりました。以前、人権シネマの集いで紹介した映画「あん」は、こうした史実をもとに制作されました。

# うちの学校 紹介しまあ!

その38  
東浦中学校



「自分を大切に、他人も大切に  
できる生徒の育成をめざして」

東浦中学校では、生徒が  
人権尊重の理念に対する理解  
を深め、自他に対する肯定  
的な態度と共生社会の実現  
に取り組む実践力を身に付け  
ることをめざして、すべての  
教育活動をとらして人権教育  
に取り組んでいます。今回は、  
本校の生徒が地域の方々と  
もに取り組んでいる活動と学  
習の様子をお知らせします。

1年生では、特別養護老人  
ホーム施設の方を講師にお招き  
し、介護の仕事について学ぶ取  
組を行っています。実際に介護

の現場で働いている方のお話を  
聞かせていただくことで、相手  
の立場に立つて考えることの大切  
さや人と関わることの素晴らし  
さを知ることができました。

2年生では、トライやる・  
ウィーク体験活動において、  
地域にある様々な福祉施設で  
貴重な体験をしました。社会  
で生きていくうえで、相手の  
心に寄り添い、お互いを思い  
やるが必要であることを学  
びました。

また、本校は、地域ととも  
にある学校を目指しています。  
保護者・地域の方々とのつな  
がりを大切にする取組として、  
生徒たちの地域行事への積極  
的な参加があります。

一つは、部活動による地域と  
の交流です。本校の吹奏楽部  
は、介護老人福祉施設・聖隷  
カーネーションホームへの慰問  
や淡路市社会福祉協議会によ  
る「東浦ふれあいまつり」での  
演奏を始め、地域で行われる  
行事に数多く参加しています。

楽しみにしてくださる方々も多  
く、行かせていただく会場はい  
つも歓声と拍手で溢れています。

もう一つは、地域にある松  
帆神社で行われる「ござがえ  
祭り」の全校生による川柳灯  
籠づくりです。生徒たちが作っ  
た灯籠がお祭りの当日に飾ら  
れ、お祭りに花を添えます。

他にも、5月に行われる伊  
勢久留麻神社の「ギヤルみこ  
し」や事代主神社の「水かけ  
祭り」などに、多くの生徒た  
ちが神輿の担ぎ手として参加  
させていただくことで、地域  
とのつながりを深めています。

これからも東浦中学校は、  
日々の教育の中で生徒が人権  
尊重の理念に対する理解を深  
め、自他に対する肯定的な態  
度と共生社会の実現に取り組  
む実践力を身に付けられるよ  
うに努めます。また、保護者・  
地域の方々のご理解とご協力  
により、「自分を大切に、他  
人も大切にできる生徒」の育  
成を推進していきます。

## ぼわいん 手話 !!

第66回

### 「金メダル」

手話は、ろうあ者  
が日常使用している  
コミュニケーションの  
方法です。  
このコーナーでは、  
ろうあ者の生活や手  
話等を紹介します。



①



②

- ①金…利き手2指の輪を前に  
向けて、左右に回すよ  
うに振る。
- ②メダル…丸めた両手2指で  
輪を作り、胸の中央へあてる。

『きこえない・きこえにくい』  
選手たちの国際スポーツ  
大会、第25回夏季デフリ  
ンピック東京大会は11月  
15日から26日まで行わ  
れ、約80の国・地域から約  
3000人が参加しまし  
た。

しました。会場では、各  
国から集まった、きこえ  
ない・きこえにくい人のほ  
か、きこえる人、その他の  
障がいのある人たちが、一  
緒にスポーツを観戦しま  
した。

日本初開催となった今  
大会は21競技を実施。日  
本勢はメダル51個（金16、  
銀12、銅23）を獲得し、過去  
最多だった前回2021  
年大会の30個を大幅に超  
えました。

会場は音がきこえなく  
ても情報を保障する案内  
表示や、手話通訳や案内  
用タブレットを持ったス  
タッフも多く配置されま  
した。

共生社会の実現に向け  
て、第一歩を踏み出す大会  
となりました。

各会場には目標を大き  
く上回る約28万人が来場

協力：淡路聴力障害者協会 手話サークル津名

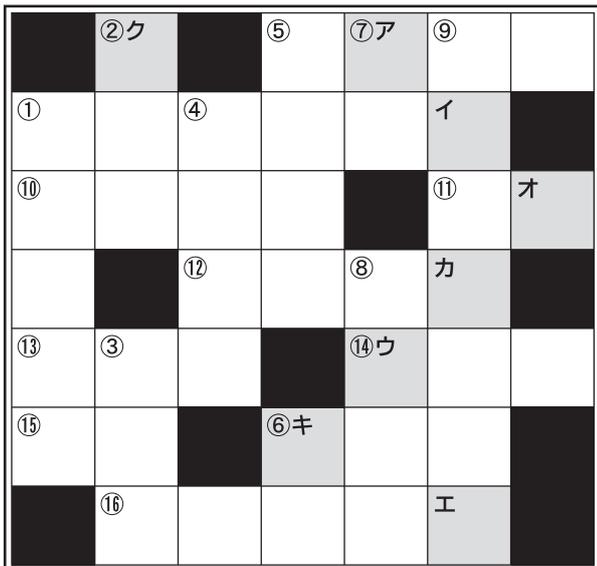
## 【タテのカギ】

- ①目に青葉 山ほととぎす ○○○○○
- ②日本で最も一般的に食べられているコメの種類
- ③淡路の春を告げる郷土料理
- ④干支の最後
- ⑤漢字で書くと「彼方此方」「此处彼処」
- ⑥社会の秩序を保つためのルールや規範
- ⑦その土地や地域 ○○産業
- ⑧春を告げる野菜  
炊き込みご飯や木の芽あえに
- ⑨寒暖の周期を表す 本当は冬の言葉

## 【ヨコのカギ】

- ①冬の終わりに初めて吹く南寄りの暖かい風
- ⑤チドリ目カモメ科の鳥 鋭いくちばしが特徴
- ⑥映画「鬼滅の刃」の主題歌では、これを漢字で書いて「ほむら」と読ませた
- ⑩日本に生息するといわれるまぼろしの生き物
- ⑪「量」のことをひらがな2文字で
- ⑫土地の広さを表す単位 約70a(アール)
- ⑬漢字で書くと「土筆」
- ⑭非常に美しい○○○のことを風光明媚という
- ⑮「萩」と発音も漢字も似ているが、イネ科の植物で見た目は全く異なる
- ⑯春の選抜高校野球「一球○○○○○」

## クロスワードクイズ



★8文字 (ア～ク) でできる言葉が答えです。

**アイウエオカキク**

ヒント→いずれも2026年で施行10年です。

◆クイズの答え、住所・氏名・年齢(学年)とご意見・ご感想・イラストなどをハガキに書いてご応募ください。正解者の中から抽選で図書カードをプレゼントします。

【あて先】〒656-2292 淡路市生穂新島8番地  
淡路市市民生活部市民人権課  
クロスワードクイズ 係

【しめきり】2026年4月30日(木)(当日消印有効)

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

## 第76号 の答え

「じんけんえいが」  
(人権映画)



## 【障害者差別解消法】2016.4.1 施行

正式名称「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」。公的機関や事業者に対し、障がいのある人への不当な差別的取り扱いを禁止し、合理的配慮の提供を義務付けている。

## 【ヘイトスピーチ解消法】2016.6.3 施行

正式名称「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」。「特定の民族や国籍の人々に対する差別的言動(ヘイトスピーチ)は許されない」との認識を示し、国民の理解を深め、偏見をなくすための教育・啓発などを国や地方公共団体に求めている。

## 【部落差別解消推進法】2016.12.16 施行

正式名称「部落差別の解消の推進に関する法律」。「現在もなお部落差別は存在する」「部落差別は許されない」との認識のもと、部落差別の実態調査や相談・救済のための体制整備などを推進する。

# 2025 人権ポスター・標語入賞作品

小学校高学年の部

事務局  
淡路市役所市民生活部市民人権課

〒656-2292  
淡路市生穂新島8番地

TEL 0799-64-2521 FAX 0799-64-2565

e-mail: awaji\_jinken@city.awaji.lg.jp

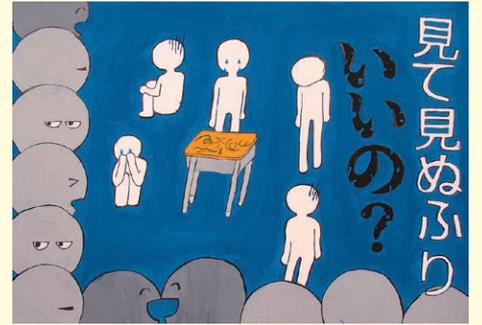
UD  
FONT  
印刷に際しては、  
「UD Font」のロゴマークを  
併せてご使用ください。



特選 酒井 杏奈 (志筑小6年)



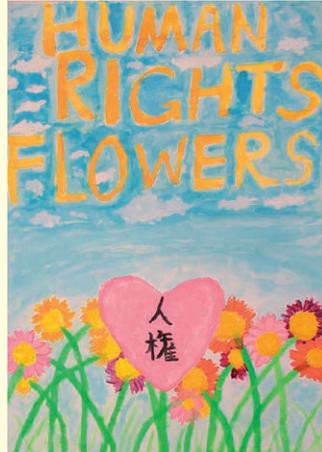
入選 柴田 妃花心 (志筑小5年)



入選 沖田 楓 (津名東小6年)



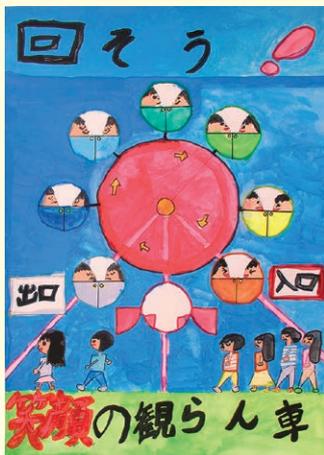
入選 正木 琳麻 (志筑小6年)



佳作 蟬塚 璃一 (浦小4年)



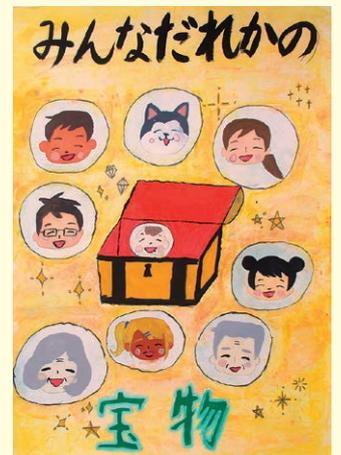
佳作 出口 友愛 (塩田小4年)



佳作 峠 文乃 (北淡小4年)



佳作 齋藤 千桜 (浦小5年)



佳作 竹内 のゆき (石屋小6年)

## 【小学校高学年の部】

特選 万国に やさしさ広げれ ミャクミャク(脈々)と

入選 言葉って みえないけれど のこるもの

入選 その笑顔 本当の笑顔? 無理せずに

入選 ことばのチカラ いじめをなくす ゆうきの声

佳作 その言葉 声に出す前に しんこきゅう

佳作 あなたの手 だれかをすくう 希望の手

佳作 ひかっている 心と心の やさしさが

佳作 まわそうよ ニコニコ笑顔の かんらんしゃ

佳作 気持ちの輪 つながりの輪 命の輪 大切な三つの輪

一宮小学校4年

くぼ しゅんすけ  
久保 俊輔

津名東小学校5年

あきた いぶき  
秋田 一颯

大町小学校6年

にしおが しょうま  
西岡 秀馬

塩田小学校6年

はな みずき  
鼻 瑞葵

志筑小学校4年

さかもと はる  
阪本 陽琉

多賀小学校5年

くずはら ゆめ  
葛原 夕愛

津名東小学校5年

たなか きい  
田中 希依

浦小学校5年

なかの まの  
仲野 茉乃

塩田小学校6年

たにうち りお  
谷内 莉麻